

審査の結果の要旨

氏名 角田（沢田） 秋

本研究は、精神医療体制の地域移行を進めるわが国において、サービスの普及が期待されている精神科訪問看護について全国調査を実施し、分析したものである。訪問看護ステーションの看護師が統合失調症を有する人に実施したケアの内容と、その対象者の特性について分析し、以下の結果を得た。

1. 精神科訪問看護において特徴的なケアには、国内外の先行研究からその実施が予測された「エンパワメント」「家族ケア」「モニタリング」の実施があることが確認され、特に「エンパワメント」に関するケアが高率に実施されていた。
2. 精神科訪問看護におけるケア量増加を予測する利用者特性として、社会機能が低いことがもっとも強く関連しており、次いで、年齢が若いこと、合併症があることが関連していた。
3. 精神科訪問看護の対象者をケア実施度の特徴をもとにクラスター分析を用いて分類したところ、ケアと対象者の属性に特徴のある<独居者援助型><重症者への家族援助型><他援助がある人へのモニタリング重視型><重症者への本人援助型>の4群に分類できた。群間で、同居者の有無、社会機能、訪問看護以外の援助者の有無に差が認められ、対象者によって異なるサービス提供パターンがあることが示された。

以上、本論文は、これまで業務の予測が困難と捉えられてきた精神科訪問看護が、利用者の基礎属性や機能から、ケア量と内容、パターンを予測できるものであり、身体疾患対象の訪問看護同様に、訪問看護ステーションにおける訪問業務に組み込める可能性を示した。このことは、訪問看護ステーションによる精神科訪問看護の普及に重要な貢献をすると考えられ、学位の授与に値すると考えられる。